コンスタブルの絵に魅かれて

山本浩二（千葉県浦安市）

コンスタブルの「乾草車」

私が 10 歳の頃だったでしょうか。「女学校の頃、セルロイドの下敷きに描いてあったこの絵が大好きだったの」と母は画集を広げてよく私に語っていました。それはイギリスの画家コンスタブル（1776-1837）の緑の濃い田園風景画でした。

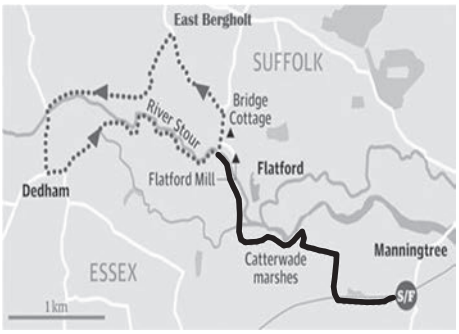
ジョン・コンスタブル「乾草車」1821 年
ナショナル・ギャラリー(ロンドン)蔵

損害保険会社に入社して航空保険が専門となった 30 代後半の頃、毎年のようにロンドンへ出張していました。仕事の合間に大英博物館などを見ることが好きだった私は、ある日、トラファルガー広場のすぐ近くのナショナル・ギャラリーでこの絵を偶然見たのです。それは、実際は初めての対面でしたが、私には久しぶりの再会でした。

コンスタブルカントリーへ

「そうだ、この絵のところに行ってみよう！」1987 年 5 月のロンドン出張は休日をまたぐスケジュールが取れ、念願のコンスタブルカントリーへ出かけることができたのです。

ガイドブックはなかったので、一般地図を見ながらロンドンのリバプールストリート駅から北東へ約 1 時間電車にゆられ片田舎のエセックス州マニングツリー駅へ。そこからストア川沿いを 1 時間ほど歩いて行けば着けるはずと出発しました。



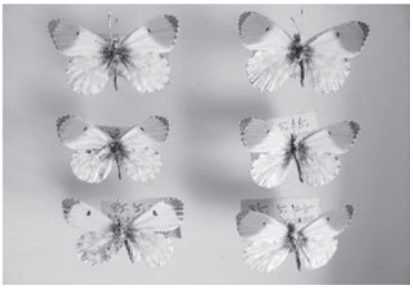
誰にも会わず着けるか不安でしたが、地図を片手に方位を確かめながら歩いて行きました。

クモマツマキチョウの乱舞

ストア川には鴨や白鳥の親子がともにゆっくり移動してくれて、のどかな田園風景の中を進みました。間もなく行くとたくさんのオレンジ色のチョウが舞っている草地に出ました。それは憧れのクモマツマキチョウだったのです。日本では北アルプスなどの高山にしかいない珍しいチョウで、それがこんなにたくさん、それこそ乱舞していたのです。大感激でした。長年チョウの観察を続けている私でしたが、このクモマツマキチョウを間近に見るのは生まれて初めてのことでした。

ストア川　イギリスエセックス州

そして、ついに到着。描かれてから 200 年近く経っているのに小さな製粉所も大きな木々や池も昔のまま。イギリス人達が永久に続くよう大事にしてきた自然に、人間の作った古い建物が調和して、より次元の高い美しい光景です。まるで「第二の自然」と言えるような場所でした。



クモマツマキチョウ